新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ　http://niigata-ksk.sakura.ne.jp

会　　長　稲田　春男
事 務 局　伊藤　明徳
会報編集　大場　　勲
TEL 025-270-9427

令和５年度冬山講習研修会 報告

指導技術委員会委員長　堀口　寿彦

１ 概要

令和６年２月17日～18日に冬山講習研修会を実施しました。場所は新発田市滝谷「農村婦人の家」及びその周辺山域です。本会は１日目が座学で２日目が周辺山域での実習という構成で、これは従来通りです。この会は講師の研修も兼ねるため、参加者は講師を含め、座学10名・実地訓練13名（内講師４名）でした。

本会はコロナ禍のため、令和元年度に実施した後、休止していました。今回は令和５年５月に２類から５類へ位置付けが変更されたことを受け、４年ぶりに再会しました。

久しぶりの再会で、どの程度参加していただけるか全くわかりませんでしたが、例年よりはかなり少ない状態でした。ただ、この時期各山岳会で別の行事が重なったこともあったようです。

２ 座学及び懇親会

１日目の座学については、「１雪山登山の概要と基礎技術」「２雪上・氷雪技術」「３雪山のリスクと対応例」の３部構成で実施しました。

１雪山登山の概要と基礎技術では、服装を含む基本装備と地図の基本的な使い方及び生活技術を中心に講義を行いました。

項目としては、服装・地図の利用方法・ツェルトの使用法としました。

服装については、基本的なアンダーからアウターの組み合わせを中心とし、現在比較的多く用いられるようになったベースレイヤーやソフトシェルの紹介を行いました。

地図の使用法については、各種方法がある中で、ここでは地図と実際の方向を合わせる「整置法」をとりました。

また、非常時のビバークとして、ツェルトの使用方法をとりあげました。これは危険回避の方法としては最も実用的と考えたためです。本会は、冬山に関して基本的な技術を習得し安全な登山をできるようにすることも目的の一つです。山の遭難は通常複合的な原因で発生しますが、いわゆる道迷いから動けなくなり、疲労凍死に至るケースも多くみられます。これが起きる原因の一つとして時間の制約から焦りを生じ、無理をしたため判断を誤る場合があげられます。これらは、ビバーク技術を習得することで、気持ちに余裕ができ回避できることが考えられます。その手段として比較的軽く負担の少ない装備としてツェルトが役立つと考えたためです。

続けて、雪山の重要な技術として雪上及び氷雪技術の講義を行いました。ここでは、近代的な道具を中心に一般ピッケルと氷壁登攀用アイスアックスの違い及びアイゼン等の違いなどについて講義しました。さらに、移動手段としてのスキーやスノーシューも紹介しました。

また、冬山のリスクとして雪崩も大きな問題です。今回は雪崩についてもその対処法としてビーコンによる捜索の座学を行いました。

（室内講義）

WEST
OUTDOOR LIFE STORE
新潟 / 三条 / 長岡 / 上越

特にビーコンについては、通常の講習では、一人の対象者を見つけることのみに囚われがちですが、今回は複数の埋没者が出た場合を想定し、連続した捜査法を講義しました。さらに、掘出しにあたっても、出来るだけ短時間に複数の人を救出する方法について示し、できるだけ実用的な手法を習得してもらうことを目標としました。

後はビレイ法の一つとしてスタンディングアックスビレイを取り上げ、実施訓練に向けて手法の習得を図りました。

今回一般参加者がやや少なかったのですが、その分より濃い講習ができ、予定より1時間ほど延長されましたが、皆さん熱心に聴講していただきました。

講義の後は、恒例の懇親会となりましたが、普段なかなか顔を合わせることが少ない、山岳会間の懇親が図れたのではないかと思います。

３　山中での実習

18日は周辺山域での実習を行いました。今年は異常な暖冬による小雪のため、いつも実施している赤谷の森林公園周辺の山域では困難でした。そのため、組倉山に向かって移動しながら、適当な場所を探しつつ実施することにしました。

まずは移動時間を利用し、地図読みの練習を行いました。読図とナビゲーションは登山の基本ですが、最近はＧＰＳが普及してきましたが、今回は基本的な地図の使用法として「整置」と現在位置の確認を行いました。整置は地図を実際の方向に合わせて持つことで、具体的には身体を進行方向に向け、地図の北（磁北）をコンパスの針に合わせて持ちます。比較的簡単なことですが、地図を回転させて持つことがピンとこない方もいるようです。この方法は基本的にどのような磁石も利用できシルバーコンパスのようなメモリもいりません。続いて地図を持ち移動する中で現在地の確認を行いました。現在地の確認は、今居る所が地図上のどこであるかできるだけ言語化してチームで話し合うという方法です。明確に声に出して表現することを最初は戸惑う様子も見られましたが、後半には慣れてきて活発な意見交換ができてきました。

四〇分ほど歩いたところで積雪が四〇～五〇㎝となったのでビレイ技術を行いました。ビレイ技術としてはスタンディングアックスビレイとスコップ等を利用した支点作成を行いました。登攀を行わない方は、ロープを使う機会が少ないため、危険個所をロープを用いればより安全に通過できるということを知ってもらうことも目的の一つでした。

そのまま、ビバーク練習に入りましたが、雪が極めて少ないため雪洞関連のものができず、ツェルトに絞ることにしました。その分ツェルトの様々な張り方をチームに分けて実践しましたので、ツェルトの有効性を感じていただけたのではないかと思います。

続けてビーコンを用いた雪崩捜索訓練を行いました。今回は例年と違い、複数の埋没者を想定し、同時に複数の捜索を行いました。方法は五人パーティーで二人が雪崩に遭い、三人が捜索するという想定で実施しました。三パーティーに分けて実施しましたが、次第に速くなり、最終的には二人を五分以内で掘出すことができ、訓練としては効果的なようでした。

（野外実習・雪崩捜索）

さらに、埋まったことを想定し口に手で空間を作る方法や、笛を手元に置き合図する方法も実践し、例年よりかなり実際に沿った訓練ができたようです。

最後は帰路の途中で背負い法による搬送法の実習を行いました。方法はポールをザックのひもに固定し、遭難者を背負う手法としました。この方法は比較的簡単に実施できますが、体格差によってかなり負担が異なることも体験できました。

また、ザックを空にするため、中身を入れて移動する袋も装備の一つとなることなどやってみての実感も得られたと思います。

４　講習研修会をやってみて

今回は空白期間をおいての再開ということと諸事情により参加者が例年より少ない状態での実施となりました。

しかし、その分かなり密度の高い講習研修ができたのではないでしょうか。

このような会を実施する場合、実際の場合は違うとの意見もあるでしょうが、訓練を実施する効果はあったように思われます。実際に、山中で、

雪崩捜索・ツェルト張・搬送などを実施することにより、問題点や体への負荷などを感じられることは貴重です。ビーコンにしても、現代の機種は少し前のものに比べ複数捜索機能や感度等でも格段に進歩していることを実感できました。これらのことは実施してみることによる気付きであり、今後もこのような講習研修会を続けていく意義を再確認できたように思われました。

加盟団体の山行から

白山（五泉市1,012m）

新潟ランタン会　K・M

（日時）２０２４年２月11日

白山は三度目。初めて登った時は春、古い記録を見ると２００４年４月30日だった。その当時、見た花をメモしていたのだがたくさん書いてある。きっと花満開だったのだろう。中でも自然のスポットライトを浴びたシュンランが神々しかったのは忘れられない。二度目は２０２２年10月30日。ところどころ紅葉の中やっとこさ登った。下りの田村線で疲れ切った頃、小さくほんのり輝くキッコウハグマを見つけた時は疲れが吹き飛んだ。

そして今回２月11日。他の山同様雪が少ないようで、最初は雪も風もなく汗をかきかき登った。急登を登ると三合目辺りから待ってましたの雪。足跡から先行者は、一匹と一人のようである。最初は犬を連れた登山者かと思ったが、途中から犬と思われる足跡は消えた。

その代わりウサギのような違うような足跡や、跳躍力のある小さな足跡、カモシカの足跡などを見かけた。そして前日から降った40センチ前後の新雪のおかげでとにかく白さが美しい。例年なら雪の下であろう木々が、冷たい尻尾を纏い白い森を作っている。時折覗く青空も嬉しいが、薄い雲の向こうに太陽が現れると、それはまた白黒の世界が幻想的で美しい。

雪山の白の中では想像力が働き、通ったであろう動物や人を見る事ができる。雪山には色とりどりの花はないが、白い華が一面に咲いている。怪我さえしなければ転んでも楽しい。なんでもっと早く雪山に登らなかったのだろう。

今回も会のベテラン先輩方にお世話になった。

自分が思っているより危なっかしかったらしく、下山の危険個所ではザイルで保護してもらった。とても有り難い。一人や友人とでは登れない雪の白山、会に入って本当に良かった。そしてたった三回しか登っていない白山だが、毎回印象が深い。また登ろう、ヒルがいない時期に。

TOZAN Fes. 2024 in CHIBA

（第59回全日本登山大会千葉大会）に参加して

理事長　今井　浩二

前回の第58回全日本登山大会は令和元年の岐阜大会であったため、実に４年ぶりの全国登山大会でした。開催地は千葉県の南端に近い富津市、鋸南町、鴨川市、南房総市の４市町での実施でした。例年６月から10月の間に行われることが多い大会ですが、千葉県は地形的に高山がないことと、冬以外はヤマビルが発生するということ等から２月での開催となったそうです。

新潟県から８名が参加し、新潟大会への参加者をお願いする活動を行いました。

登山イベントのコース概要

登山イベントは以下の４コースが設定されていました。

Aコース：～花嫁街道～「むかし花嫁が歩いたみち」をたどる

登山口は外房の海岸に近い外房黒潮ラインの駐車場を起点とし、烏場山（からすばやま）２６６．６ｍを最高点に周回するコースである。登りの花嫁街道は急登が少なく歩きやすい道がつけられている。烏場山は新日本百名山、日本百低山に選定され、房総では人気のコースとなっている。下りは花婿コースで傾斜はやや急になり黒滝

に下る。コースは整備され、要所に展望台もあり、太平洋や房総丘陵を眺望することができる。（約５時間）

報告：松井 潤次

Ｂコース：～鋸山～
鋸山の一等三角点を訪ね「東京湾を望む道」を歩く

浜金谷駅から関東ふれあいの道コースの入口まで10分、４００段ほどの階段を上がると唯一のトイレがある観月台に着く。石切りの歴史に触れながら見どころ満載のコースを１時間ほど進むと東京湾が望める展望台に着く。鋸山山頂３２９．４ｍへはいったん下って10分程かかる。下りは車力といわれた女性たちが切り出した石をおろした道を下り、１時間ほどで最初の入口に戻ることができる。駅からほど近く家族連れにも親しまれるコース。（４時間半）

報告：佐藤 博

（御殿山から鋸山方面を望む）

Ｃコース：～御殿山・大日山～　椿のトンネルをくぐり、ヤマトタケルゆかりの山を散策する

車道から大谷川ダムの脇を通る林道を歩き御殿山に。適度にアップダウンを繰り返す稜線を通り大日山まで歩くコース。最後は増間ダム湖脇の林道を通って車道に出る。登山道がしっかり整備されているのが印象的。最高高度は御殿山の３６７．７ｍと高くはないが適度にアップダウンがあり、軽快に登山を楽しめる。（４時間）

報告：今井 浩二

Ｄコース：～房州アルプス～
梨沢七ツ釜を周回する鎌倉古道、房州アルプスを歩く

梨沢七ツ釜渓谷を挟んだ馬蹄形のコースで西側の尾根道が鎌倉古道、東側が房州アルプスである。今回は反時計回りで周回した。登山口の梨沢区公民館から鎌倉古道に入った。この一帯は令和元年の台風で大被害を受けたが、倒木の整理・登山道の付け替えなどでようやく歩けるようになったそうだ。ＮＨＫラジオの〝山カフェ〟のマスター『石丸謙二郎』さんも登山道の復旧に積極的に参加され、休憩地点に杉丸太を輪切りにした腰掛が用意されており、石丸の銘がチェーンソーで刻まれていた。アップダウンを繰り返しながらこのコースの最高標高の三浦三郎山（２８１ｍ）で昼食。その後程なく保田見峠に着き、ルートを左に回り込むと房州アルプスである。源頼朝の言い伝えが残る２等三角点のある無実山を過ぎ尾根道を下ると下山口の房州アルプス登山口に着く。ここから林道を２ｋｍ程下り、鹿原（じっぱら）集落に到着、ここで迎えのマイクロバスに乗車し交流会のある〝ザ・フィッシュ〟まで送ってもらった。（４時間30分）

報告：井口 光利

登山イベントでのＰＲ活動

各コースへはマイクロバスでの移動でした。開会式後、会場の鋸南町中央公民館で各県の岳連・ＪＭＳＣＡ・ＯＢの参加者が乗車し、さらに浜金谷駅で一般参加者を乗せ、それぞれのコースに移動（鋸山は浜金谷駅からスタート）しました。登山後は、また浜金谷駅に戻り一般参加者を下ろすという流れでしたので一般参加の方にＰＲできるのは登山中とバスの中しかないという条件でした。従って登山中はできるだけ多くの方と会話をし、新潟大会のＰＲを行い、登山後のバスではマイクで参加を呼びかけました。参加した方々の中には私たちのＰＲ活動に関心をもってくださる方が多く、名刺を求められたり、パンフレットがほしいと要望されたりと「手応え」を感じる活動となりました。

交流会でのＰＲ活動

交流会では８人が持参した名札を着用し、さらに名刺をもって臨みました。乾杯の後、各テーブルに人員を割り振り、漏れ落ちがないよう計画的にＰＲ活動を行いました。また、次期開催県の紹介の場では「新潟でお会いしましょう」の横幕を張り、言葉だけでなく視覚的にも訴えられるようにし、喝采をいただきました。

登山、交流会を通じて名刺をいただいた方もいましたので、再度のＰＲとしてメールで呼びかけを行って行く予定です。

（新潟大会ＰＲ活動）

⑥田中正人氏（プロアドベンチャーレーサー）トークショー

特にメーカーブース見学（登山メーカー、登山プライベートブランドの登山用具販売）では、登山参加者だけでなく、地域の方や近郊の山を愛する方もたくさん参加できました。このような催しを設けたことは登山普及の観点からもとても画期的な計画であると感じました。

千葉県の独自のイベントについて

登山イベント以外では次の取り組みがありました。

①旧金谷小学校校庭と体育館でのメーカーブース見学（登山メーカー、登山プライベートブランドの登山用具販売）２日間実施

②旧金谷小学校での房総の山麓復興プトジェクトの活動報告（写真展）２日間実施

③トレイルラン見学

④地元の飲食イベント「おらが市」

⑤山での応急手当講習会

今後新潟大会に向けて準備していくこと

３月には要項が完成し、参加者の募集が始まります。準備することは多々ありますが今回の千葉大会に参加して次のことを諸準備に加える必要性を感じました。

①役員一人一人が大会全体の動きを把握すること

バスの運行が明確に示されていなかったため、運営側の予定と参加者の行動に齟齬が生じる場面がありました。また、スタッフも他のバスの動きが分かっていないような様子であったため、混乱が生じていたようでした。スタッフは他のグループの動きもしっかり把握し、臨機応変に対応できるようにしていく必要を感じました。

②参加者の動きを単純化するとともに、理解してもらう方法を工夫すること。

スタッフが思っている動きを具体的かつわかりやすい方法で参加者に伝える工夫が必要だと感じました。

③一度の呼びかけだけでなく何度か参加を呼びかけ、期限内に参加者が出そろうようにする。

今回だけでなく毎回参加者の申込が遅くなる傾向があるようですが、早く把握することで名簿の作成、班編等ができ、それによって全体の動きも明確になるので、期限内に出そろうようになるとよいと思います。

④ＪＭＳＣＡにも参加を呼びかけてもらうよう依頼する。

今回の千葉大会から７ヶ月しか期間がないということで、参加者の募集に困難が生じることは以前からＪＭＳＣＡの方々にお話し、協力をお願いしています。期日も迫ってきていますので周知する活動の開始をお願いしていこうと考えています。

⑤参加者相互のコミュニケーションがとれるよう名簿、名札等を整える。

Ｂコースでは名札をテープでつけたためコミュニケーションをとりやすかったとの報告がありました。参加者の名簿、名札等を整えることで互いのコミュニケーションがとりやすくなりますし、今後の山行のきっかけにもつながると思います。個人情報の観点を配慮しながら検討していきたいと思います。

最後に・・・

いよいよ新潟大会が近づいてきました。新潟が前回全日本登山大会を行ったのは昭和38年、魚沼三山、荒沢岳、巻機山だったそうです。実行委員だけの力では限界があります。

新潟県山岳協会だけでなく加盟団体の皆様からもお力を拝借し、一大ベントを成功に導こうではありませんか。ご協力をよろしくお願いいたします。

第35回奈良山岳会・新潟峡彩山岳会交歓登山
（他県山岳会との交歓事例の紹介）

峡彩山岳会　木村　昌克

令和５年９月16日～18日、当山岳会と奈良山岳会の交流は、昭和39年頃に姉妹山岳会となり、奈良山岳会の坂口会長と当会顧問の藤島玄が、お互い吸収できるところがあるはずと考え、昭和41年奈良の大峰山脈で第１回交歓登山を行って以来、交互に訪れて新潟では飯豊や佐渡、越後山脈など冬季も実施してきました。コロナ渦でしばらく延期していましたが、今回、巻機山で尾根隊と沢隊の２つに分けて頂上を目指しました。

９月16日、六日町で合流し

清水集落の民宿「やまご」へ向かう。奈良山岳会から17名の参加の一方、迎える峡彩は14名と少ないが、そこは個々の熱意でカバーする事に！

夕食時に自己紹介を行うが、両会共に年齢が高い。

時折、雨音が聞こえて明日の天候が心配されるが、前夜祭では交流を深めて和やかな時が流れる。

今回のチーフリーダーの太子副会長から、沢での留意点等についてロープを使ってミニ講習会を行う。

米子沢はつい最近も事故があったことから万全の体制を組み、安全第一を考えて、一週間前に偵察山行も行ってきた。

また、奈良方面の沢とは渓相も異なり、奈良山岳会の沢隊４名は緊張気味であったが、太子リーダーの実践を交えたアドバイスで緊張も少しほぐれたようだ。

17日早朝、宿から用意してくれたオニギリをザックに詰めて沢隊を送り届けてから尾根隊も６時に出発する。心配した天候も回復しており一安心。駐車場はかなりの混雑で関東等方面の車が多い。百名山であることや山名も人気の一つであろうか？

留守組を除き、沢隊は９名、尾根隊は17名で頂上を目指す。

計画では米子沢の終了点である避難小屋で合流としているが、とにかく安全第一で登る事とする。

天候も晴れてきて熱いなか、沢はさぞかし気持ち良いだろうなぁと思いながらゆっくりと隊列を組んで尾根道を登る。沢隊とは無線で定時交信としていたが、電波が届かない。（こちらのアンテナ状態が悪かった）10時20分に避難小屋に到着し大休止の後頂上へ向かう。

当初、周囲はガスっていたが次第に晴れて越後三山が眼前に姿を現わす。最高点や隣の割引岳をピストンして13時過ぎに避難小屋に戻る。

ようやく無線が繋がり、沢隊もすぐ近くまで遡ってきており、13時30分に合流する。アクシデントも無く、滝壺で泳いだり好天の沢を楽しめたようだ。

沢隊も頂上を目指すので尾根隊は下山に向かう。

16時30分にほとんど車が居なくなった駐車場に到着。留守組に沢隊の回収を任せて六日町の温泉で汗を流す。さぁ後は懇親会。

18時30分沢隊も汗を流して全員集合。奈良の皆さんは、頂上での展望を楽しんだ尾根隊もさることながら、越後の沢を堪能した沢隊は疲れたようだが満足感いっぱいの様子。盃を交わし、会歌や歌のリレーもありの賑やかな懇親会となった。

今回の交歓登山は、迎える側の峡彩の人数が少なかったが、事前の偵察山行等、太子チーフリーダーの安全対策により事故なく終えられた事が一番の収穫であり、また、久々に奈良山岳会との交流を深められた事である。

次回は２年後に峡彩が奈良に行く事となるが、この交流は人が変われども末永く続けていきたいと感じた。

令和５年度第２回理事会議事概要

（日 時） 令和６年１月20日（土）11：00～13：00
（会 場） ホテルニューオータニ長岡　３階　うめの間
（出席者）議決権を持つ役員24名の内、18名出席。過半数を超え理事会成立。

議　題　（議長・稲田会長）
（１）各委員会報告
「指導技術委員会」（堀口委員長）
・６月12日　日本山岳スポーツクライミング協会指導委員総会兼研修会開催
・６月18日　岩登講習・研修会を新発田市杉滝岩で実施
・２月17日～18日　冬山講習会（研修会）を新発田市滝谷他で開催予定

「遭難対策委員会」（中村委員長）
・10月22日　第２回安全登山講習会を角田山で開催　参加者24名（内、一般参加者９名）
・３月９日　第３回安全登山講習会開催予定
・山のグレーディングに気象危険度を追加することについて
（新潟県スポーツ課）山のグレーディング提唱県の長野県と足並みを揃えて対応する予定。
（ヤマテン猪熊氏）　長野県にも新潟県と同様の提案を行っている。
県山協（遭難対策委員会）は、推移を見守る。何らかの働きかけがあった時には対応する。

「自然保護委員会」（伊藤委員長）
・９月６日　新潟県環境対策課との意見交換会（今後、県等への要望を２～３件程度にまとめて提出。）
・10月３日　巻機山登山道改良工事施工状況確認
・11月23日　日山協自然保護委員総会　　※来年度研修会は、糸魚川地区で開催予定。

「競技委員会」（田中委員長）
・10月８日～10日 鹿児島国体　新潟県からは成年男子、少年男子が出場
・10月18日～19日　審判員、セッターブロック研修会（石川県で開催）
・３月30日　小中学生ボルダリング大会（胎内市hut-wallで開催予定）
（その他）
・上越市板倉区の廃校利用リード壁。維持費面で上越市と交渉中。負担減となるよう方策を検討中。

「登山普及委員会」（渡辺委員長）
（令和６年度活動計画（案））
６月29日（土）～30日（日） 朝日連峰 以東岳 1,772m
９月21日（土）～23日（月） 全日本登山大会 新潟大会（苗場山、平標山、三国山、湯沢高原）
11月９日（土）～10日（日） 加盟団体との交流登山　飯豊連峰 倉手山952m

「弥彦山たいまつ登山祭委員会」（楡井委員長）
・７月25日にたいまつ登山が実施され、遠藤 俊一参与から山頂講話をして頂いた。
たいまつ登山祭終了後、泊りで慰労反省会が行われた。

（２）第60回全日本登山大会新潟大会について（渡辺登山普及委員長）
① 全日本登山大会千葉大会参加
（日程）令和６年２月16日（金）～18日（日）　（参加者）稲田会長他６名

②新潟大会の後援及び協賛法人　（後援）新潟県、湯沢町、公益財団法人 新潟県スポーツ協会
（協賛）パーマーク他５法人　※この他スノーピークに依頼中
③運営スタッフ　35名
④全日本登山大会新潟大会要項（案）　１月末までに作成予定
⑤新潟大会ご来賓について　県知事、湯沢町長、丸会長に祝辞、出席依頼済。
⑥その他
・県山協加盟団体に全日本登山大会現地集合、現地解散での参加募集を検討中。
・昨年、大平園地の東屋を新潟県が撤去。新設の話が頓挫。燕市西蒲原郡選挙区選出の県議に３団体（日本山岳会越後支部、弥彦山岳会、新潟県山岳協会）連名で請願書提出。→　理事会了承。

（３）ＪＭＳＣＡ臨時総会について（今井理事長）
・令和４年度、JMSCAで98百万円もの大幅な赤字が発生。（登山部）11百万円、（ＳＣ部）78百万円
【原因】いい加減な会計処理。言いなりでの支出。　【対策】補填が必要 → 基金設置と定款の変更
・説明を聞いた理事会出席者から以下の発言があった。
「話を聞き怒りを覚えた。徹底的な原因究明を新潟県山岳協会からも発言してもらいたい」
「監査があるはずなので、そこにも大きな責任がある」
これらの声を新潟県山岳協会からＪＭＳＣＡに伝えることとした。

（４）令和６年度評議員会について（伊藤事務局長）
（日時）令和６年４月13日（土）　11：00～評議員会、14：00～懇親会
（会場）新潟東映ホテル

（５）その他
①アジア山岳連盟創立30周年記念事業について（今井理事長）
・新潟県山岳協会は、山頂行事のみを担当。三役、楡井たいまつ登山祭委員長で対応可能。
②常務理事会について（今井理事長）
・１月30日に各委員会行事の摺り合わせを行う。

登山・ハイキング・クライミング
テレマーク&山スキー
パーマーク
Mountain & Outdoor Parr Mark
長岡市西宮内2-97（長岡市役所裏通り）
TEL0258(37)1200・FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30～PM8:00水曜定休
http://www.parrmark.co.jp

編集後記

３月となり、ようやく春の訪れが間近に感じられるようになって来た。これから行きつ戻りつして徐々に春を迎える。

今冬は、さほどの降雪とはならず助かりました。県山協加盟の山岳会の方々には、今回寄稿頂いたように冬山を満喫された方も多いことでしょう。

冬山は、夏山とはまた違った魅力を感じるものです。寒くはありますが、凛とした空気と白一色の世界。登った人しか体感できない別世界がそこには有ります。

最後に、今年の元旦に発生した能登半島地震では、能登地域が甚大な被害を蒙り、本県でも新潟市西区を中心とした地域で大変な被害を受けた方々が多く居らっしゃいます。

お見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復興をご祈念致します。

（大場　勲　記）